



19万人のひろば

博愛の精神で看護活動に励んだ70年間

フローレンス・ナイチンゲール記章を受章した山田里津さんの講演会

看護活動において世界で最も優れた功績があった看護師に贈られる最高の栄誉「フローレンス・ナイチンゲール記章」。今年では世界で36人が受章し、その1人に日本看護学校協議会名誉会長で市内在住の山田里津さん(90歳)が選ばれました。昨年8月、日本赤十字社名誉総裁を務める皇后さまから直接授与されました。

山田さんの受章を記念して、1月23日、八千代市赤十字奉仕団主催の「中央ブロック赤十字まつり」で講演会を開催。会場のふれあいプラザには約170人が集い、これまでの看護人生のエピソードに耳を傾けました。

山田さんが看護師を志したのは17歳の頃。第2次世界大戦の最中でした。「社会で何かお役に立てれば」との思いで三重県にある日本赤十字社の看護学校に入学。敵も味方も関係なく命を救う「博愛の精神」を学びました。終戦後、アメリカ軍の占領下にあった三重県庁で初の女性衛生課技師として任命を受け、全国で最も乳児死亡率の高かった県内地域で食生活や衛生環境の改善に取り組みました。主婦の労働環境や食生活の改善、おむつの衛生指導などを保健師への教育を通して行い、乳児死亡率を下げることに成功。その取り組みは次第に全国に普及しました。

1963年からは、旧厚生省で勤務。医師による医学中心の看護教育から、専門職の学問としての「看護



◀記章やアルバムを見せながら、授与の様子を紹介する山田さん

学」を確立させるため、法律改正を働きかけたほか、専門科目のカリキュラムの作成にも取り組みました。国の仕事に全力で打ち込む山田さんを支えたのは家族でした。2人の子育てから家事全般をお姑さんが引き受けてくれたそうです。「家族の支えや人に恵まれたからこそ、仕事に専念できた」と話します。

40代半ばからは現場に戻り、1972年には国内初の看護職畑から任命された学校長として、三井記念病院高等看護学院に就任。以後、多くの看護教育の現場に携わり、約2,000人の看護師を養成してきました。

「受章は全く思いがけないことで、筆舌に尽くしがたい。青天の霹靂です」と山田さん。今後も健康を心掛け、常に相手を思いやる気持ちを大切に過ごしたい、と笑顔で語りました。



■市役所で防災訓練を実施

東日本大震災が発生してから間もなく5年。皆さんは防災への備えは万全ですか。1月15日、市内で震度5強の地震が発生したと想定し、庁内外で災害対応訓練を実施しました。災害対策本部の設置や運営の手順について確認し、ホームページも災害用に変更しました。歩いて市役所に出勤する参集訓練には481人が参加しました。

野菜たっぷりメニューコンテスト

旬菜
バツグン賞

レストラン ロス・アンジェルス
「新鮮野菜とベーコンの
ニンニクオイルの Pasta」



【受賞のポイント】自家農園の低農薬・無農薬野菜を使用していて、季節感のある盛り付けも工夫されている

【メニュー提供期間】 通年

【店舗情報】 ▶所在地 勝田台南3-1-11 ▶電話番号 484-3388 ▶営業時間 11時~24時 ▶駐車場 あり ▶休業日 12月31日、1月1日

少年自然の家「野鳥観察室」で野鳥を見てみよう

▶パンくずやみかんをついばむヒヨドリ



市内北部に位置し、四季折々の自然に触れることのできる少年自然の家。例年1月から3月まで野鳥観察室を開放しており、マジックミラー越しにヒヨドリやアカハラ、メジロなどの野鳥が観察できます。静寂の中で、野鳥のさえずりに耳を澄ましてみませんか。暖かい服装でお越しください。

▶開放時間 3月27日までの午前9時~午後4時。毎月第2・4日曜日は午後3時まで ▶休館日 土曜、第1・3・5日曜日、祝日 ▶所在地 保品1060-2 ▶駐車場 30台 ▶問い合わせ 少年自然の家 488-6538へ

リサイクル・ガイド 消費生活センター 485-0559

●この欄のお問い合わせは、消費生活センターへ。受け付けは、土曜・日曜日、祝日を除く午前8時30分から午後5時まで(午後4時~5時は483-1151へ)。交渉は当事者間で行い、結果は必ず同センターへ報告してください。企業・営利団体は利用できません。

【あげます】▶こたつ/正方形(75cm×75cm) ▶姿見(新品同様、90cm×40cm)

【ゆずります・有料】▶スケート靴/ハーフスピード 室内外用/スポルディング製(新品同様・25.5cm)

▶ジューサー(箱付き・新品) ▶一眼レフカメラ/ニコン製(箱と取扱説明書付き・新品)

◆市役所1階ロビーのリサイクル品情報コーナーもご利用ください。また、同センターでは、食品の放射性物質検査(予約制)も行っています。

八千代歌壇

佐波 洋子選

具沢山のひとり鍋なり身めぐりに温もりを寄せ春の菜摘ふ
(大和田新田) 梁井りつ子
そこに初焼く煙たなびきて暮るるを惜しむ笠森の秋
(萱田町) 吉田 仁子

降りてみよう行ってみようと思いつつ通過してゆく若き日の町
(八千代台東) 森野 豊作
抱かれる嬰兒の足ぬつと出る抗う自我の足裏あかき
(ゆりのき台) 池内きよ子

遠森の辺にとっしり白き病舎建ち黒くると高圧線伸ぶ
(勝田台) 鈴木 悦秀

紙吹雪のように散りいる公孫樹の葉母の背を抱き病室から見
(大和田新田) 増尾 克子

難病の姉の暮しを支えているおやつのような数多の錠剤
(下市場) 村越喜美子

獅子柚子を湯船に浮かべ指を折る愛した数と愛された数
(勝田台北) 田巻 幸生

選評 一首目、一人の鍋料理は寂しいがだからこそ具沢山の心を通わせた。作者は更に身近に温かそうな物を引き寄せた。二首目、完成されたスタイルがある。やや概括的だが、四句の常套句が「笠森」により一般的にならず、地名に添う情緒として固有な郷愁を醸し出している。三首目、行こうと思えばいつでも行け、降りればいいその駅なのだが敢えて通過する。そんな青春の疼く町や駅を誰しも持つ。「駅」として象徴的に。

やちよ川柳

八千代川柳連盟選

誉められて思わず背伸び見栄を張り 大和田新田 市東 国昭
小さいが心のトゲになる疑問 大和田新田 風戸万里子
価値観の違う相手といて疲れ 八千代台北 皆川 治
心込めインクにじんだ年賀状 村 上 齊藤のぶ秋
元旦は神と仏が寄り添う日 村 上 佐藤 昌平
憎いやつ年を取っても艶っぽい 八千代台北 村松和泉屋
合の手阿吽の呼吸芸の妙 八千代台北 石川 静子
溜めといいた本音は酒に混ぜて出す 勝田台 福島 つぐ

やちよ情報メール
(防災・防犯・環境・火災・
イベント・徘徊高齢者等・
健康・市政
登録申し込みは yachियो@sg-m.jp <

